



甘泉
藏堂

庭訓往來松壽藏
誤字改正
平假名附
全



庭訓往来

春姑冲悦向貴方先復申此年

富貴を福福以事甚と称感物

親不者以期日元三三夜可也中

之身を駐作人子遊る者乃思延引

似言寫志權た花小蝶花日影

石隠文庫

宮

宮

頃宵を意作し午將を楊の雀より
 之勝負を懸し半を會する慶園
 物と遊して九を吏の曲所日
 打撲を笑み為る射は射挽く連者
 少く有る侍侍も思ふ意作る本是
 年隆の満朝を云次委る能

腐毫也種吉

正月八日 左衛門尉藤原實

謹上 石見年殿

改年吉慶の御沙意の陳出の目
 出度是所は他嘉慶年未だ正月九
 披見を毛陽の遊宴殊に実味

凍早脫落處樹脚底往往更
 自他故凍不盡之遺面生有虎
 竟上正一五事才今國道恒的失養
 因多其法將作一種一飛一卒之
 課役緒之由物之亭主之妻元死
 因亦致之由之妻事物之妻不

及三條約面陽之時也權之

正月六日 石見守中原

道上源方清門尉教

面其後津總良生后如行時教

意勢其併以滿城於以痛之

醍醐雲林院元濃事其自感

後哉吉野山穠園落市陳其指盤
輕點雪心草事流極送光法式
花下好士法家仁如雲似霞遠和之
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石
花名雲物信儀經合相先所釋之石

宗道和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引
以手巧巧自之保同和歌連志一表對の有沙誘引

二月廿二日

彈心忠二書

徑上 大監物殿

秋自是今年より又座を設け同
 公事生じ如き松花下會事死
 島岡月好士不字待秋管領嘉
 齡延年より喜也進所相対本儀
 後遷座より深衣裁樹樓城以因致

室中も若人のも有異内様雨を
 人事也因行時志乃不也和す
 雖作人赤人右風来亮長秋屋敷
 柱頭浪本乃中書冠凡情通傳
 打秋藩領所請船司より及管領
 家々舊流より名所表紙より傳領

貨物に接後、以て國庫に接續せざる
 加敷一重に下指し、心算執事
 及至、賈物以下、まゝ未凍、名南陸定
 不及、高麗、柳、青、用、まゝ、車、汽、及、如
 不、秘、書、公、私、記、運、奉、七、は、く
 二月廿二日
 監物無源

禮上、彈心忠友、道平
 祝喜、今、ま、陸、車、運、奉、七、は、く
 唐貨、目、車、運、奉、七、は、く
 平、有、陸、車、運、奉、七、は、く
 都、有、陸、車、運、奉、七、は、く
 平、有、陸、車、運、奉、七、は、く

新殿之厚雲霄板廊中

本草綱目卷之九

角柱に松竹相續客風の五松
 日暮松竹堂律書在案玉体玉先候
 清也清又様流之庫を中回建
 後元樹を松竹を載案を回下回
 植也松竹下を案を玉標を勅は
 意貴くも玉作は建て候へ

三月七日

玉書元平

中政所殿

被下候具取束平柳心玉等
 用也柳下又沙教書も厳事更
 都候言書書傳存候所へ通ひ玉
 吉事人撰の吉日の辰耕作書宛

中也^{ちゅうちゅう} 坪^{へい} 又^{また} 書^{しよ} 事^じ 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 孔^{くう} 沙^さ 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 事^じ 又^{また} 書^{しよ} 事^じ 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 中^{ちゅう} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 本^{ほん} 板^{ばん} 材^{さい} 木^{もく} 又^{また} 書^{しよ} 事^じ 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 能^{のう} 又^{また} 書^{しよ} 事^じ 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}

風^{ふう} 之^の 方^{はう} 立^た 雲^{うん} 辟^{へく} 木^{もく} 興^{きう} 興^{きう} 基^き 保^ほ 本^{ほん} 井^{せい}
 鴨^{えい} 柄^{へい} 敷^{しき} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 角^{かく} 不^ふ 德^{とく} 經^{けい} 材^{さい} 木^{もく} 又^{また} 書^{しよ} 事^じ 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 榮^{えい} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}
 天^{てん} 井^{せい} 德^{とく} 經^{けい} 材^{さい} 木^{もく} 又^{また} 書^{しよ} 事^じ 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ} 或^{ある} 法^{はふ}

梅雪水山遺地具象其津風令
賞之山を斧鑄活所再造化行金
物を用意炭臘巨指振次と造作
本之寮所理職人致車巧匠所造
居柱を石地棟と古里と製法湯公
多平少樹木幸梅極季枇杷香楊梅

柿栗利木推榛板福車樹漢拙其子
橘雲列橘金柑樹下公東及人植
年程少日記致依下法事降可合
細金領田整其氏名主在官未存野々
同余未落店い責依後遊泰可
中入名可報諸紙を造と紙と

きんごろう

三月

左衛門忠橘

進上

主事元殿

沖返報

久不接奉月之回之奉書事何条

筆式抄抄領典の座敷長電

初之煙草百羅門東西之書藝之役

甚不承也貴殿重知之様存記

おん物軒直下民の海をね貴者

おん物軒直下民の海をね貴者

おん物軒直下民の海をね貴者

おん物軒直下民の海をね貴者

おん物軒直下民の海をね貴者

おん物軒直下民の海をね貴者

川

十二

客宿運送賣買津吏の是
 易会の松崎行車表式寄付
 陸付保付通上各是事
 可道通死元京所ノ濱商徳念飛
 物事有市交易事庫取津所
 保大津地中馬信馬將河車信也

傳と添と津浦向元同新津進
 貫と添と津浦向元同新津進
 在島増子室町伯津津延津延
 宗と安と野利カ人京新小野津
 成集城殿殿仁和眉化婦津津

馬本寺清院院馬頭布東大寺西山
寺外如寶給丹後續お多濃上京
住持は信濃布大腰油上野結屋
敷衣法衣後著伊勢切作珍廉
僧は法堂同裡紙掛布摺衣使る金
重殿衣約長口半奥所金法紙

越後信濃院院馬頭布東大寺西山
寺外如寶給丹後續お多濃上京
住持は信濃布大腰油上野結屋
敷衣法衣後著伊勢切作珍廉
僧は法堂同裡紙掛布摺衣使る金
重殿衣約長口半奥所金法紙

賤之不善乃後人先法領豐饒
甲乙之善者乃後人先法領豐饒
已神妙也善者乃後人先法領豐饒
催進沙連等乃後人先法領豐饒

進上 末女心殿
正月十二日 仲勢等進上

身之福由善積善乃何日最勝哉
將進上乃不可耐之伴別來書
園東上乃大名等乃後人先法領豐饒
乃善者乃後人先法領豐饒
乃善者乃後人先法領豐饒
乃善者乃後人先法領豐饒

大書通陳時客入徑頭外一在年
トのけいあい まうけうのいりむぎんうりいんどもむーんのーしりあをうへ
本經受周車主止街也淫忘不事
得審因集車主一集端車一深經
美廷廣風九慢雲處致身傳多次人
主可遠場けい外也性又金多程集深
神榮地具る美雲盤了八金子國量性

痛爛癰輪下直江又集傳飲上進
付主進家入春集車家牙保諸家
貴因金也配膳勸金料理店下或威
物不収美職主一車車主八在經也
万幸身成各因平教以雪美有指
併初春初時不具也保證

八月九日

左京を平

進上花人将監殿 冲館

不審方々處玉吉恩列来文迄

好舞夜更被御留玉平のまは杯

寄人先陳後接安光在参み玉に御用

もまは杯参りまをて也焼参多杯

幡幡参江波載江ふ家参也往来馬

大馬林様業味嘴嘴此酒地梅再初

秋科海川蟹斗飽梅下初梅さう総園

飽消真躬業海胤生初太朝朝里

耕福屋魚雄免雁甲鶴中雀雀水乃

山乃一青地菊え熱白千硝玉作鶴梅之

主事集賢財產追捕民僱新
 取旗入竊者有伐伐得大將軍
 段發乃方由家一姓因地向彼捕服
 却賊擲逃伐不稽純賊徒一聖國要
 害國之近月故主務公亦山國戰
 場武真余以下大員亦山者集

獲宿道腹表年出素移主山國威
 獲使今方主事當必自國門先
 速也一素之方移骨人幾多令
 堪佐若存命休再會時下人
 將軍家法後書教書上主下
 獲主旗主際內威亦威一旗令一獲

中後教坊長官は國軍忠義隊に
 活の義経様代相傳へる領二水軍を
 地を不有細末を依ふ願はるふ
 結人店係任法作客と僅と
 僅と後據六郎玉殿
 六月七日 勅解由以安所

只今欲進便もて形座を致さる
 相計をさるる河津後院抄教坊
 進修事決り給ふ事と倫有院事
 底規式を自反置る事と此今後
 到軍中教坊係任法作客と
 用居將軍家御事概と秋以侍

時降天香也腰面うも平重藤深
 筆も最も追加法志平太方とを庫
 標も預留用お深来候来虎たを巻白
 柄長方同は洋うも連録筆先棋の筆先
 鳥も初毛筆鶴も構毛筆先河も先筆鶴
 髪白月顔筆筆先髪も譜法損り金同

金地燈の筆筆先取軟細筋の筆筆筆
 皮唐錦虎は鹿子切筋筆筆筆筆
 散毛筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆
 袋の巻野和料雨皮散皮筆筆筆筆筆
 所及筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆

捕と武士を養ひて法を治むる軍
政を奏し令彼國を治むる我隆判官
備後流連也猶未及あるを
具言しと流連を治むる我隆判官
奉切書書し時を治むる

九月

乙卯

備後流連也猶未及あるを
具言しと流連を治むる我隆判官
奉切書書し時を治むる
備後流連也猶未及あるを
具言しと流連を治むる我隆判官
奉切書書し時を治むる

[illegible]

さゝあ
のんのやう
糸
う
と

た清に剣の中は

どの

進上
文内が補殿

薄紙拂^{うす}紙^しの^の白^{しろ}用^{もち}な^な故^{ゆゑ}也^{なり}争^{あら}非^な雅^{みや}儀^ぎ
後^ご抄^{しょう}波^はよ^よ利^り事^{こと}は^は国^{くに}産^うみ^みた^たる^る也^{なり}

用錫^{ハハヒ}後^{ハハヒ}と^{ハハヒ}並^{ハハヒ}に^{ハハヒ}持^{ハハヒ}て^{ハハヒ}是^{ハハヒ}を^{ハハヒ}保^{ハハヒ}衛^{ハハヒ}す^{ハハヒ}事^{ハハヒ}有^{ハハヒ}
 不^{ハハヒ}可^{ハハヒ}及^{ハハヒ}至^{ハハヒ}る^{ハハヒ}練^{ハハヒ}武^{ハハヒ}親^{ハハヒ}自^{ハハヒ}張^{ハハヒ}表^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}重^{ハハヒ}重^{ハハヒ}
 注^{ハハヒ}文^{ハハヒ}亦^{ハハヒ}不^{ハハヒ}可^{ハハヒ}及^{ハハヒ}至^{ハハヒ}る^{ハハヒ}人^{ハハヒ}其^{ハハヒ}須^{ハハヒ}未^{ハハヒ}知^{ハハヒ}也^{ハハヒ}
 持^{ハハヒ}好^{ハハヒ}房^{ハハヒ}書^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}注^{ハハヒ}張^{ハハヒ}綿^{ハハヒ}上^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}表^{ハハヒ}横^{ハハヒ}走^{ハハヒ}純^{ハハヒ}也^{ハハヒ}
 上^{ハハヒ}持^{ハハヒ}洗^{ハハヒ}淨^{ハハヒ}湯^{ハハヒ}杖^{ハハヒ}鈴^{ハハヒ}佛^{ハハヒ}也^{ハハヒ}其^{ハハヒ}香^{ハハヒ}燭^{ハハヒ}不^{ハハヒ}持^{ハハヒ}
 半^{ハハヒ}生^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}未^{ハハヒ}人^{ハハヒ}持^{ハハヒ}惜^{ハハヒ}也^{ハハヒ}其^{ハハヒ}燭^{ハハヒ}不^{ハハヒ}持^{ハハヒ}也^{ハハヒ}其^{ハハヒ}香^{ハハヒ}燭^{ハハヒ}不^{ハハヒ}持^{ハハヒ}

龍^{ハハヒ}虎^{ハハヒ}梅^{ハハヒ}竹^{ハハヒ}唐^{ハハヒ}繪^{ハハヒ}羽^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}横^{ハハヒ}綿^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}表^{ハハヒ}重^{ハハヒ}重^{ハハヒ}
 和^{ハハヒ}琴^{ハハヒ}鼓^{ハハヒ}瑟^{ハハヒ}方^{ハハヒ}琴^{ハハヒ}瑟^{ハハヒ}人^{ハハヒ}之^{ハハヒ}彼^{ハハヒ}錫^{ハハヒ}報^{ハハヒ}信^{ハハヒ}報^{ハハヒ}二^{ハハヒ}
 報^{ハハヒ}個^{ハハヒ}後^{ハハヒ}持^{ハハヒ}報^{ハハヒ}求^{ハハヒ}同^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}下^{ハハヒ}之^{ハハヒ}用^{ハハヒ}錫^{ハハヒ}の^{ハハヒ}
 持^{ハハヒ}ち^{ハハヒ}不^{ハハヒ}日^{ハハヒ}持^{ハハヒ}ち^{ハハヒ}有^{ハハヒ}持^{ハハヒ}共^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}生^{ハハヒ}涯^{ハハヒ}ふ^{ハハヒ}
 持^{ハハヒ}ち^{ハハヒ}不^{ハハヒ}日^{ハハヒ}持^{ハハヒ}ち^{ハハヒ}有^{ハハヒ}持^{ハハヒ}共^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}生^{ハハヒ}涯^{ハハヒ}ふ^{ハハヒ}
 持^{ハハヒ}ち^{ハハヒ}不^{ハハヒ}日^{ハハヒ}持^{ハハヒ}ち^{ハハヒ}有^{ハハヒ}持^{ハハヒ}共^{ハハヒ}衣^{ハハヒ}生^{ハハヒ}涯^{ハハヒ}ふ^{ハハヒ}

七月日

紀

庚
官

十

廷
川

仍由吏部傳澤陽後改乃所任者
悠々後也後法中法書也書有是活
持針暗生致進奉收伏也平王仁也
經書中圖師也奉新贈給中平王仁也
存秘中領內奉書員職機嫌也
讓狀陳書越境歸來中平王仁也
相傳中書書也中書書也中書書也

相傳中書書也中書書也中書書也
以上衆國同奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉
定法有終始也奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉
汪賊賊也賊也賊也賊也賊也賊也賊也
及更及更及更及更及更及更及更及更
快也快也快也快也快也快也快也快也

所状義同客所陣抄おと討生
 王雄も飛を以と取捨事共
 宿法陣室是身更成敗高江平永代
 法安寺塔年紀放春輝雅秀安和状
 負流文殊集其好と管領歩人電奉
 以人殊判事あひと為討方と集南泰

[illegible]

八月七日

教位長官部

禮上 大極殿

王領領法れいふ使の者も中御事
 仕奉る事と申す御事家も天徳
 車供奉目記に借用有は候は然る
 其科預金証の圖を御國傳る事

年終渡り金清車渡り事所へ
 殿上人並に山内家も数得難權て
 以て既に御家水車供奉人清丸
 衣量等も御家御家御家御家
 色は御家御家御家御家御家
 難事御家御家御家御家御家

武藝國々勇まきて甲斐思く體也
 馬鞍ら服着重代々重愛用新服も美
 衆自対々濃波をまふ下た勇ま
 別仍勇ま力役入増成無相害らる事
 古唐使く遠征人増樂に難難後使
 於陣陣染る舞人打鼓樓の舞ひ終

[illegible]

迎光筆供作之景をもて決て

八月十日

たけのこ

借上
ナ内記殿

御法後乃今老生書する相叙
 のところ ようそ とうけい とうけい けい けい のとう とう のとう
 依松と刻と悔と陳叙及玉
 そむき ぶらわ とう とう とう のとう とう とう とう とう
 有佛を具通後悔の外他物を執り

佛事大法
南無阿彌陀佛
以真傳老轉明悟
以首行光陳
僅書陳
坊人

今更に座に坐す。其の如く。一。佛。二。菩薩。三。阿羅漢。四。羅漢。五。羅漢。六。羅漢。七。羅漢。八。羅漢。九。羅漢。十。羅漢。十一。羅漢。十二。羅漢。十三。羅漢。十四。羅漢。十五。羅漢。十六。羅漢。十七。羅漢。十八。羅漢。十九。羅漢。二十。羅漢。二十一。羅漢。二十二。羅漢。二十三。羅漢。二十四。羅漢。二十五。羅漢。二十六。羅漢。二十七。羅漢。二十八。羅漢。二十九。羅漢。三十。羅漢。三十一。羅漢。三十二。羅漢。三十三。羅漢。三十四。羅漢。三十五。羅漢。三十六。羅漢。三十七。羅漢。三十八。羅漢。三十九。羅漢。四十。羅漢。四十一。羅漢。四十二。羅漢。四十三。羅漢。四十四。羅漢。四十五。羅漢。四十六。羅漢。四十七。羅漢。四十八。羅漢。四十九。羅漢。五十。羅漢。五十一。羅漢。五十二。羅漢。五十三。羅漢。五十四。羅漢。五十五。羅漢。五十六。羅漢。五十七。羅漢。五十八。羅漢。五十九。羅漢。六十。羅漢。六十一。羅漢。六十二。羅漢。六十三。羅漢。六十四。羅漢。六十五。羅漢。六十六。羅漢。六十七。羅漢。六十八。羅漢。六十九。羅漢。七十。羅漢。七十一。羅漢。七十二。羅漢。七十三。羅漢。七十四。羅漢。七十五。羅漢。七十六。羅漢。七十七。羅漢。七十八。羅漢。七十九。羅漢。八十。羅漢。八十一。羅漢。八十二。羅漢。八十三。羅漢。八十四。羅漢。八十五。羅漢。八十六。羅漢。八十七。羅漢。八十八。羅漢。八十九。羅漢。九十。羅漢。九十一。羅漢。九十二。羅漢。九十三。羅漢。九十四。羅漢。九十五。羅漢。九十六。羅漢。九十七。羅漢。九十八。羅漢。九十九。羅漢。一百。羅漢。

[illegible]

九月十二日

沙磧

進上
侍者御中

あうきろのちせりめひせんまゐる人ぬすまふとあることしう
 むれも更けむ平紙下有繪仕たる皮
 せりんせりゆいぬ二げぶのうばんトするところしうありんと
 せりんせりゆいぬ二げぶのうばんトするところしうありんと

[illegible]

庭訓

得^二法^一之^レ爲^レ此^二妻^一細^二目^一糸^二村^一債^二之^レ
 福^二身^一之^レ病^二毒^一造^二人^一業^二種^一由^二紙^一書^二有^一其
 多^二く^一きよ^二わを^一づき^二る^一あ^二め^一う^二い^一ま^二い^一ぐ^二く^一ん^二ま^一ん^二の^一と^二ま^一を^二と^一あ^二ふ^一ま^二ん^一げ^二ん^一

九月

侍者

平入道殿

入院新中退院要書之下相有る

今乃大教國法夏公地財公禪
 付僧元諸寺住社和道成院後事
 供送公府住僧持布教法身教實公同
 業公仁真行著中書前仁美院
 委細下志建修家公堂次和南東堂西
 堂再舉方都寺監寺副公法主典

座直嚴都管初開欣逢主賓主漢
頭育方主本堂優堂主青座主在
維那主香爐香信者法法乃湯茶
中侍者外主舊信信信信信信
僧主主主主主主主主主主主
茶供主主主主主主主主主主

出納主主主主主主主主主主
長元主主主主主主主主主主
聖道主主主主主主主主主主
座主主主主主主主主主主主
僧主主主主主主主主主主主
肉主主主主主主主主主主主

奇重上座下必は実司其并有職僧
 綱僧使不從後家者相住薩齊僧
 俸重外僧重年重道志僧僧強使同
 朋推重乃信陳時者金較理公
 云有持約以屬次戸信然云と重信の
 法重重外重重不結云重年重

新日本書道先生會中入掛塔傳
 とくさうの
 事少ね遠頃御休養を長今作書
 二さんまうのひなをききうらやうさんはん
 釣糸之次忠信謹々
 一十

十月三日

沙
了
陈

通上
 夜鐘侍者禪師
 沙寮
 沖杞
 齊休
 筆
 畫
 作
 柳

調製人車を我任座に合
注を器移すの物移すに
方二面量も練紫の油一重を果て青
雁二床沙結紋紗布を雅并書番布二
端上京細糸糸の方二重紗梅む
襖車に結紋紗布番布二匹首を

素紗衣を各一匹外に巾着襦子
柱杖脚指布布衣袴巾着袴
綿肚脱着を各一重を果て青
蠟燭竹炭曲線打敷布を首下
知布鞋を各一重を果て青
袴袴を各一重を果て青

夕光と湯瓶維子橋茶系夢を并に散
 豆子様は正胎に寝る散因の初夢
 沖汁と豆腐美辛辣を富材茶を煮る
 領豆腐等蘿蔔寒菜汁と地菜煮
 俄蘇美夢淡牛肩肉布鳥頭布橋布
 茗荷里夢茶花夢解茶花夢の夢

此物亦花を破葉の凡其漬物
り 味のものをちき あん とう せり るものさー せこめ あを
重なるまに園を并に森を破るま
の トんを そのひきや あぬ のり 煮のり さうのり のり
若神の漬物平其若垣其酒更其
ひ いけのどん のり とう せり るものさー せこめ あを
重なるまに園を并に森を破るま
生重なるまに園を并に森を破るま
枝推まに園を并に森を破るま

子随ち自是に用信眼病時素時
の とう せり るものさー せこめ あを
重なるまに園を并に森を破るま
生重なるまに園を并に森を破るま
枝推まに園を并に森を破るま

十月日

某

此物亦花を破葉の凡其漬物
り 味のものをちき あん とう せり るものさー せこめ あを
重なるまに園を并に森を破るま
の トんを そのひきや あぬ のり 煮のり さうのり のり
若神の漬物平其若垣其酒更其
ひ いけのどん のり とう せり るものさー せこめ あを
重なるまに園を并に森を破るま
生重なるまに園を并に森を破るま
枝推まに園を并に森を破るま

律上主計正殿

披事最著清用宗院新運花露

道尊最著清用宗院新運花露

流傳最著清用宗院新運花露

和依最著清用宗院新運花露

事公前最著清用宗院新運花露

温東主最著清用宗院新運花露
眠客沈沈最著清用宗院新運花露
辛昔長途最著清用宗院新運花露
傷關最著清用宗院新運花露
味越湯最著清用宗院新運花露
佳也最著清用宗院新運花露

十一月日

儀部某

進上之内殿 沖返奉

御用儀免押帳違不違御
願儀免押帳違不違御
之儀免押帳違不違御
乃推儀免押帳違不違御

云格之儀免押帳違不違御
月儀免押帳違不違御
事儀免押帳違不違御
厨儀免押帳違不違御
堂儀免押帳違不違御
面儀免押帳違不違御

十二月

阜人佐

決之 裁前守殿

清海息而振元輝重其基乃疎飛系
好も難謝柳遠遠國州依程通吉
伝島忽建主陰さね津事進行財謝
三葉葉肉も踏改府勢長途程唐

忙外在在信長向取録是入信有仁
儀式美對中勢は像々疎々細在庭人
多目出出恒例集の意は遠飯威物
積物不中富言親雅重厨雅程義
物庭庭庭庭庭庭庭庭庭庭庭庭庭
事大女税不為化々々々田新法修効

宗書生判及代動及後動對律守見
 目録國事員人律傳通不月司公
 奉引付後使給方吏官家名重國受
 取送抄以時移役權法服貞紹國全准
 須准布滿例別納直主信之程數集
 送狀納不車法收納繳納海船租物矣

代債牙納之准按早水及
 損括國元紐換亡之勘注集有數
 約合知合新及及加佐社神
 官奉幣寺社入堂音以會連
 傳の守人例を怠慢い事趣由を考
 衆民の納法に利國莫大也難法



郷保の責現利臣多事任
 雅去一る事丸るの降由羅縹
 保朝後忠を権と

十二月

載る事保部

進上車人佐殿
 御返事

庭割往來終



嘉永七年

持主

いふふふ

つたふふふ

ふ